S O T O 禅 インターナショナル

発行日　2009年12月20日　　発行人　細川正善
編集責任者　太田賢孝　　編集担当　菅原研洲　廣澤道秀
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局　〒233-0012 神奈川県横浜市港南区上永谷5-1-3 貞昌院内
Tel. 045-843-8852　Fax. 045-843-8864　　URL: http://www.soto-zen.net/
郵便振替　00100-6-611195　SOTO禅インターナショナル

Vol.42
南アメリカ記念事業特集号

南アメリカ国際布教総監部
両大本山南米別院佛心寺創立五十周年記念慶讃法会

平成21年11月13・14・15日

Cerimônia de Celebração do 50° Aniversário da Missão do Budismo Soto Zenshu na América do Sul e do Templo Busshinji - Comunidade Budista Soto Zenshu da América do Sul
13, 14, 15 de novembro de 2009

巻　頭

“徧界不曾蔵”の禅を

永平寺副貫首　南澤道人（みなみさわどうじん）

SOTO禅インターナショナルの会が発足して既に相当の年月を重ね、代々の会長様によって活動の輪を広げ、また皆様の幅広い交流と活躍を続けておられることに心から敬意を表し有難いことと思います。

道元禅師が法を求めて大宋国に渡り寧波の舶裏で阿育王山の老典座に出会い、感激的な交流を重ねられたことは典座教訓に明らかなことでありますが、時代は隔たっても我々もまた海外の仏教者と交流する時に似た思いを致すことであります。

私事になりますが、30数年前印度日本寺の落慶式典に随行団の一員として初めて海外に旅をして得た思いはそれ以後の私の行動に大きく影響をして今日に至っているように思います。

その後、縁があって中国仏教協会会長趙禮初先生始め天童寺方丈広修法師等々多くの方との出会い、また日韓・日中韓三国仏教交流会議等に続く交流、或いは国内に於ける他宗諸大徳との友好、また宗門の海外寺院・禅センター等に活躍される皆様との出会いは、仏教就中只管打坐の仏性の普遍性を強く心に刻むと共に、更なる自己の精進に向かわせて頂く機縁となったと有難く思って居ります。

仏性は国境も人種の相違もなく普遍的なものでありますが、然しその法を修証する各人には国と伝統的な文化の相違がありますので会の活動にも難しい問題があることは当然でしょう。

今国際的な禅の広がりは喜ばしい事ですが海外に於ける関係者の間にも多くの問題があって、それぞれ悩みも抱えておるようです。

国際情勢も難問が多いときではありますが、だからこそ、この会に期待される処も多い事と思います。

会員の皆様と共に心ある人の力を合わせて、徧界不曾蔵の仏性、仏道を水が天地に沁み込むように静かに伝えていきたいものです。

この会の益々の発展をお祈りいたします。

特集１　南アメリカ記念事業報告

南アメリカ国際布教総監部・両大本山南米別院佛心寺創立50周年記念慶讃法会報告

「佛心耀を増して　正伝新たなり」

ＳＺＩ事務局員　佐藤慧真（新潟県興源寺徒弟）

南アメリカ国際布教総監部・両大本山南米別院佛心寺におきまして、2009年11月13日より３日間に亘り、創立50周年の記念事業が併修されました。これに随喜の光栄をいただきましたので、内容をご報告申し上げます。

■ 50周年と悲願の「大鑑閣」落慶

曹洞宗のブラジルにおける本格的な布教は、昭和30年（1955）の高階瓏仙猊下のご巡錫により始まりました。高階禅師が開山された寺院の一つが南アメリカ国際布教総監部のある、両大本山南米別院佛心寺です。爾来、新宮良範老師・青木俊享老師・森山大行老師・三好晃一老師、采川道昭老師ら５人の国際布教総監をはじめ関係各位により、この佛心寺を中心にして曹洞宗の法灯は綿々と守られてきたのでありました。筆舌につくせないこの50年の経過を祝う記念事業が行われた３日間、サンパウロ市内のブラジル最大の東洋人街（以前は日本人街と呼ばれていた）にあるこの佛心寺は、国内外から参集された人々でよくにぎわい、歓喜の法悦に満ちあふれていました。

今回、平成７年（1995）に落慶した本堂と渡り廊下でつながった「大鑑閣」が完成し、御披露目されましたが、新たに坐禅堂を有するこの建物の完成は、法灯の伝持を具現化する場所の獲得を意味するものであり、南米布教に遅れをとった形である曹洞宗にとって悲願の成就を意味するものでもあったのです。

３階建ての鉄筋コンクリートのこの建物に設置された坐禅堂の裏側には開山堂が、境内には開山塔・初代総監塔・歴住塔・亡僧塔、中庭には永代供養塔が建立されています。また50周年を記念して、大権修理菩薩尊像・達磨祖師尊像他多くの什宝物が献納され、これにより開眼供養が各々執り行われました。

創立50周年記念慶讃法会差定

11月13日（金）

大鑑閣額除幕式テープカット、大鑑閣拝観、開山像開眼供養、慶祝大般若祈祷、50周年記念慶祝昼餐会

11月14日（土）

開山塔開眼供養、法話、開山歴住諷経、大権修理菩薩像並びに達磨祖師像開眼供養、供養（北アメリカ国際布教総監部団参）、萬燈供養

11月15日（日）

南米開教物故者供養諷経、50周年慶讃法要、檀信徒総回向、50周年記念祝賀会

福山諦法管長猊下御揮毫「大鑑閣」額

■ 法灯の伝持を讃え更なる飛躍を願う

本法会には、曹洞宗管長代理として渕英徳宗務総長老師、宮下陽祐教化部長老師、大本山永平寺御専使として三浦信英老師、大本山總持寺御専使として山本健善老師、また各法要の導師として佐瀬道淳老師・松井道孝老師・小笠原隆元老師・高階玉光老師が随喜されておられます。このほか駒形宗彦老師・秋葉玄吾老師・フォルザーニ慈相老師ら各国際布教総監をはじめ、各座には世界中から参集された老師方がご随喜されました。

祝賀会におきまして、渕宗務総長老師は「初代総監新宮良範老師をはじめ、歴代布教総監・檀信徒・関係各位が粒々辛苦、法灯を守って来られたことに心より敬意を表し、悲願の坐禅堂「大鑑閣」を布教教化の拠点として、更なる飛躍を期待します」と祝賀を述べられました。また、宮下教化部長老師は「昨年の５月には勧募状況からいっても、今日の日を迎えることは不可能かと思っていました。采川総監が何としても間に合わせたいと、経費削減のために自らご尊像などを背負って帰られているその姿を見て、何とか応援してあげられないかと思っていましたが、今日の日を迎え、心から嬉しく思っています」と話しておられました。

五十周年慶讃法要

曹洞宗管長　大本山永平寺貫首　福山諦法猊下香語

清風唱慶百花辰
直指単堤証道親
祥嶽山頭齢五十
佛心増耀正伝新
唄
両祖金身游万里
寺檀祝慶無辺春

清風慶びを唱う百花の辰
直指単堤道を証して親しし
祥嶽山頭齢五十
佛心耀を増して　正伝新たなり
唄
両祖　金身万里に游び
寺檀祝慶す無辺の春

なお、滞在中、山本健善老師立会いの下、ＳＺＩより采川総監に佛心寺への国際布教支援金100万円の目録の贈呈が行われた旨併せてご報告申し上げます。

左より山本健善老師、佐藤慧真、采川総監

●【南アメリカ国際布教総監部・両大本山南米別院佛心寺創立50周年記念慶讃法要】

采川道昭（南アメリカ国際布教総監・両大本山南米別院佛心寺住職）

ご縁を頂戴し南米に赴任する前、前任の三好晃一第４代総監より50周年の話を伺いました。

実際に赴任してみて南米各国への布教を考えた時、記念事業として歴代の総監の夢であった坐禅堂を是非とも建立したいと発願いたしました。また寺院として開山堂及び開山歴住墓地の整備、大権修理菩薩、達磨祖師の尊像の奉安をして本堂内の整備も行いたいと考えました。

そこで勧募趣意書を作成し、勧募委員長の大任を以前南米に開教師として赴任された経験のある神奈川県種徳寺ご住職渡辺孝彦老師にお願いし、勧募庶務を福島県月心院の室井義春師に、勧募委員を總持寺の同安居の面々にお願いいたしました。また、宗務庁様には、趣意書及び勧募状況などを宗報誌上に掲載させていただきました。お蔭様で宗務庁、両大本山様より金一封を頂戴し、全国のご寺院様方より多大なご寄付ご支援を頂戴いたしました。この度「南アメリカ国際布教総監部・両大本山南米別院佛心寺創立50周年記念慶讃法要」および坐禅堂、開山堂を備えた大鑑閣の落慶式等の諸法要を厳修することができましたことは、皆々様方の南米布教と同胞日系移民の方々に対する熱き思いの賜物であると、心より御礼申し上げます。

法要には管長猊下ご代理の渕英德宗務総長老師、宮下陽祐教化部長老師、三浦信英大本山永平寺御専使、山本健善大本山總持寺御専使はじめ各総監諸老師、森山大行元総監の来駕を頂戴し、南米国際布教師、南米及び各国の僧侶の随喜がありました。また、御開山である高階禅師様の法孫の方々や同安居の法友および日本、北米からの多くの団参の参列をいただきました。日本、北米からの団参は90名以上でしたので、佛心寺檀信徒および来賓の諸氏を入れると本堂に溢れんばかりの参詣がありました。

このように、多くの方々のお蔭を被り式典を無事終了出来ましたことは一仏両祖及び諸仏諸祖のご加護と感謝申し上げております。また、什宝物のご寄付献納者の方々、特派布教師方、ご加担頂いた梅花流特派布教師の諸老師方その他まだまだお

名前を挙げて御礼申し上げなければならない多くの方々がいらっしゃいますが、紙面の制約上割愛させていただくこと何卒ご寛恕くださいませ。

末筆ながら、ＳＺＩさまには物心両面でいつもお世話になっておりますが、このたび佐藤慧真師を派遣していただき、取材のみならず種々お手伝いいただき大変お世話になりました。有り難く心より感謝申し上げます。　合掌

※ご寄付を頂戴いたしました方々へは記念品として記念誌とＣＤをお送りいたしますが、記念誌を余分にお求めの方は、郵送費込みで実費にて頒布いたしますので佛心寺までご連絡下さいませ。

（海外寺院ガイドブックP54参照）

●“遠い”ブラジルで考えたこと

山本健善（大本山總持寺国際部長・桃源院住職）

キャンドルサービスさながらの萬燈供養に盛り上がった３日間の大法要が無事円成した。ブラジルでの布教が50周年を迎え、坐禅堂・大鑑閣が落成した。両大本山別院のあるハワイは100周年、ロサンジェルスの80周年と比べると歴史が浅いようではあるが、ブラジルでの布教の端緒が、高階瓏仙禅師の２度にわたる訪伯、そして新宮良範総監の身を賭した布教にあったことを思うと、ここに大きな節目を迎えたように思う。

日本からのお坊さんと現地のお坊さんとの共同の全体運営や法要は珍しくなくなった。が、未だ現地のお坊さんが中心となるまでには時間がかかりそうだ。期間中、法式研修を受けたいとある現地の指導者から耳打ちされた。この後アメリカの陽光寺で、宗立専門僧堂が開かれるそうで、待ち焦がれた人が多いことであろう。資格付与は日本側の課題であり、インターチェンジを通じての自己の内容点検こそ、現地の志ある方々の本音であろう。

ブラジルの50年は、異なった宗教事情の中での、それぞれの僧侶の孤軍奮闘の歴史であったように思う。昭和34（1959）年に宗門から派遣された松永然道師、平子興世師、桑原弘之師らと共に同じ船で、一月半をかけて渡られた弓桁氏夫妻がお元気な姿で法要にお見えになられていた。そのお話に、いろいろと思いを馳せた。先達に報いることはできないが、青春の夢を捧げられた方々のご芳名が別院内に掲げられることを提案したい。

采川道昭総監は、「伽藍ができてこれからは人づくり」と結

ばれた。旅の最中、ニューヨークのローリー大道師が遷化されたことを知った。人に法を伝えることが第一の使命である我々として、待ったなしの感を強めた旅であった。

●初心に返って、緊張と感謝の３日間

佐 藤 鴻 舟（南アメリカ国際布教師・モジ禅源寺住職）

佐藤鴻舟師
（モジの禅源寺にて）

この度、ご縁が有って３日間に亘り曹洞宗南アメリカ国際布教総監部・両大本山南米別院佛心寺創立50周年記念慶讃法会に副悦の配役で御随喜させていただく事が出来ました。

11月13日、曹洞宗宗務総長の渕英徳老師が法堂にて三鑿三拝を致し、引き続いて大鑑閣額除幕式テープカットが行われました。コーラスの皆様と参加者の皆様にてブラジル国歌が歌われましたが、私もブラジルにおいて生活、活動をさせていただいていることに感謝しブラジル国歌を歌い、又日本にいる両親・兄弟・親類・友達を思いながら日本の国歌を歌いました。

13日の行事はその他に、開山像開眼供養、慶祝大般若祈祷が行われました。私がブラジルへ来て早くも19年が過ぎました。そのため回向に癖が出てしまい、日本からの御寺院様から御指導をいただくことになりました。

14日には開山塔開眼供養が行われました。私が現在活動させていただいている禅源寺は、高階禅師が初開道場として開かれました。その禅師様の御塔に御焼香をさせていただく事が出来たのはありがたいことであります。次に開山歴住諷経が行われ、導師退堂後、焼香三拝いたしましたが、その時、青木総監とのご縁を思い出しながら御拝していますと胸がいっぱいになり、自然と暑さで流れる汗の中に一滴の感謝の涙が混じりました。

実は、ハワイの時から私の師匠と青木総監とのご縁があり、そのお陰をもって19年前に布教師として言葉も分からないブラジルへ来る事になったのですが、その時１週間総監部に泊まらせていただいたのです。その総監部といえば、古く暗い建物でありました。1990年４月８日には、パラナ州ローランジャー佛心寺に入り４年間の活動を行いました。その後、一時は日本に帰りましたがすぐにブラジルへ戻り僧侶側ら、他に仕事をしておりました。2004年７月から三好前総監のお陰で、モジの禅源寺に務めさせていただき、2008年に国際布教師を再任することが出来ましたのは、また、采川総監の御力添えがあったからこそであります。

こうした想いをもって、この３日間の法要の一座一座を緊張しながらも心をこめて維那を務める事が出来ました。

皆様との仏縁にオブリガード

●坐禅のチャンス到来を慶ぶ（インタビューより）

大 城 仙 芳（アルゼンチン僧侶）

今回、私はアルゼンチンから50周年慶讃法会のお手伝いをするためにやってきました。母の大城慈仙もペルーから駆けつけています。南米には曹洞宗の僧侶が沢山いませんから、何としてもお手伝いをせねばと思っていました。

さて、この度大鑑閣が完成し、沢山のブラジル人が坐禅をするチャンスが増えました。南米には本当の僧堂といえる場所というと、イビラスの禅光寺があります。しかし禅光寺は遠い山の中にありますので、ここサンパウロに坐禅堂が出来たということはまたそれとは違った意味があるのです。佛心寺で毎朝坐禅をしている参禅者や僧侶にとって、この大鑑閣の完成が今後強いサポートとなることは間違いありませんが、そしてそれはまた同時に、サンパウロの人口２千万人にとって、あるいはブラジルの人口１億８千万人にとって、より身近に坐禅のチャンスが出来たということをも意味するのです。私を含め、アルゼンチンからもペルーからもコロンビアからも、人々は坐禅に来ることでしょう。

大袈裟なことを言っているのではないのです。日本の方にとっては、お寺を建てるというのは普通のことかもしれませんが、私たちにとってこれはミラクルです。南米の人々はほとんどキリスト教徒で、一般に仏教のこと、まして禅のことなどほとんど知りません。作務衣を着ていたら、空手の先生だと思われてしまいます。合掌すら見たことがない人がほとんどです。私にしても、本当にこの日が、ここで坐禅堂の完成をお祝いする日が実現するなど夢だと思っていました。それが今かなったのですから、この喜びを言葉にするのが難しい程です。

また、今回の記念事業は、私にとって大変勉強になるものでもありました。日本からサポートに来てくださった沢山の僧侶と交流し、また自分にとっては新しい法要を見たりすることが出来ましたので、大変学ぶことが多かったのです。去年信じられ

左から大城慈仙師、ビッチ大樹師、大城仙芳師

なかった夢がこうしてかなったのですから、これからもこの道を信じて、坐禅弁道していきたいと思います。

■ 仏教東漸の最果てで

記念行事の開始される3日前の昼過ぎに佛心寺に到着した私の目に入ったのは、ホールに集まり、五観の偈を唱えながら合掌する人々の姿でした。佛心寺の僧侶とお手伝いにやって来た檀信徒の皆さんが、ちょうど昼食をいただくところだったのです。早速その輪に入ってからこのかた、滞在中はセルフサービスのご馳走の乗ったテーブルに何度足を運んだことでしょう。眠気を覚ますためにブラジルコーヒーをと、疲れを取るために（と称して）ケーキにフレッシュフルーツにとフラフラ引き寄せられていく。そんな私に対して、「疲れたでしょう？これも食べたら？元気が出ますよ」など、皆さんがとても良く気を使ってくださるのでした。

毎日まいにち老若男女、沢山の方々がお手伝いにやって来られます。ブラジル人僧侶や参禅者の皆さんもやって来られます。工事が遅れ気味で、前々日まで窓枠も入らず、床の上に積もっているコンクリートの粉を何とかしようと、みんなで箒で掃き出し回廊掃除よろしく一列になって雑巾がけをすることになりました。言葉が通じないのに、心を一つに全員がよく身体を動かしていました。何十枚あるのか分からないドロだらけのガラス窓を、どれだけ時間がかかるのだろうと途方もない思いで見上げましたが、延々と磨かれた後には、やがて南半球の真っ青な夏の空とぽっかり浮かんだ白い雲が映り込んでいました。そんな調子の大鑑閣に、采川総監が何度もなんども足を運んでおられたのが印象的でした。事務所でも法堂裏でも、毎晩夜中まで法要の準備を照らす明かりは消えませんでした。

そんな皆さんの思いを乗せて始まった慶讃法会でしたが、多くの御寺院様の来伯を得て各座は粛々と執り行われ、あっという間に最後の記念祝賀会を迎えるに至りました。この会では、森山大行老師がブラジルの僧侶、理事の方々などを壇上にお誘いし、「『日本人の俺たちが仏教が分からないのに、なんで外国人が分かるんだ』と言った友人がいましたが、では日本の国技の相撲を今、誰がやっているんでしょう？　この檀上にいる人たちが今、ここで日本の文化を守っているんです。日本人は自分の教区寺院のことしか知らないが、世界には外国人の僧侶が沢山いることを知って欲しい」と力強くお話されていたのが印象的でした。かくいう私自身、今回沢山の外国人僧侶とふれあい、仏教が東漸して最果てで息づいている姿を拝見し、大いに弁道増進の志気を刺激されました。世界中に広がるサンガの存在が自分にとって、何という心強さとなることか。

さて、とはいえ歩いて5分ほどのホテルと佛心寺までの間のブラジルしか見ていない私に、「せっかく遠くからやって来たのにそれではもったいない」と国際布教師の佐藤鴻舟師が声を掛けてくださり、サンパウロから車で1時間半ほどのご寺坊の禅源寺に招待していただくことになりました。最終日の祝賀会の後の話で、私は翌日帰国なので大変忙しい小旅行ですが、車中も利用してそれまで漠然としていた国際布教の現場のお話を伺うことが出来ました。曹洞宗の布教活動の初期には、「今頃何しに来たんだ。今更寺なんかいらないよ」という、移住者の複雑な思いの込められた発言があったとのこと。佐藤師が禅源寺に入ったとき皆さんが「新しい住職さんだ」と喜んで迎えてくださり、お寺が子どもたちの遊び場になり、その子どもたちとのふれあいの中でポルトガル語を覚えていったことなど。

そうやって話す車中の私の目にも、荘厳なカトリック教会の数々が飛び込んで来ます。もし自分が言葉も分からないままこのカトリックの国にやって来た一人の国際布教師だったら…。そんなことを考えながら、その景色の重みを味わっていたことを今思い出し、采川総監はじめ佛心寺の皆様や各国際布教師の皆様、ブラジル僧侶の皆様のお顔を一人ひとり思い浮かべると、手を合わせずにはおられなくなります。どうぞ佛心寺と南米の仏法にご繁栄とご発展がありますように。

滞在中は皆様に大変お世話になりました。山本健善老師と、佐藤鴻舟師とご家族一同様には特別なご配慮をいただきました。また、心細い私にゆる～く笑いを投げかけてくださった方々に癒されたことなどが思い出されます。最後になりましたが、皆々様に心より御礼申し上げたいと思います。

佐藤慧真九拝

特集２　サンフランシスコ75周年／好人庵15周年

サンフランシスコ桑港寺開創75周年慶讃法要に随喜して

ＳＺＩ相談役　福島伸悦（埼玉県長光寺住職）

１）はじめに

霧のサンフランシスコとは打って変わって青空の天候に恵まれ、好人庵開創15周年、桑港寺開創75周年慶讃法要が10月23日、24日、25日にわたり執り行われた。日本から好人庵堂頭・北アメリカ総監・秋葉玄吾師、並びに桑港寺国際布教主任・舘寺規弘師のご縁のある方丈様、並びに法友の皆様方が日本から32名、北米から13名の国際布教師の皆様方の随喜により盛大に円成する事ができた。

２）スケジュール

23日　好人庵開創開山智堂省一大和尚23回忌
　　勧請開山瑞岳廉芳大和尚17回忌
　　勧請開山栴崖奕保大和尚1周忌逮夜特為献湯
　　焼香師　　宮城県海蔵寺住職　鈴木信哉老師
　　好人庵主催歓迎夕食会
　　於　サンフランシスコ・「Yoshi's」レストラン
24日　森嶺雄老師追悼諷経
　　焼香師　　宮城県津龍院住職　舘寺昌晴老師

　　好人庵開創開山智堂省一大和尚23回忌
　　勧請開山瑞岳廉芳大和尚17回忌
　　勧請開山栴崖奕保大和尚1周忌逮夜特為献湯諷経
　　焼香師　　兵庫県海久寺住職　中村典篤老師
　　好人庵禅堂開創15周年慶讃法要
　　焼香師　　大本山永平寺副貫首
　　北海道中央寺住職　南澤道人老師
　　祝斎　　於　山内
　　サンフランシスコ桑港寺へ移動
　　首座入寺式
　　配役・本則行茶
　　歓迎夕食会　於　桑港寺社交室
25日　首座法戦式
　　西堂　　兵庫県海久寺住職　中村典篤老師
　　檀信徒総回向
　　導師　　桑港寺国際布教主任　舘寺規弘師
　　記念法話
　　特派布教師 長野県常輪寺住職　中野天心老師
　　通訳　　国際センター　　ルメー大岳老師
　　開創75周年慶讃法要
　　焼香師　　兵庫県海久寺住職　中村典篤老師
　　記念撮影
　　記念昼餐会　於　カブキホテル・サクラルーム

南澤道人老師

３）好人庵禅堂開創15周年慶讃法要

好人庵は、昭和57年（1982）「Yoshi's」レストランのオーナーの発願によりオークランドの自宅に坐禅堂を作ったのが始まりである。５～８人ほど坐れる部屋で私も坐ったことがある。もう30年以上前のことだと記憶している。そのころは、現在オーストラリアのシドニー郊外で坐禅指導している是松慧海師と秋葉玄吾師が指導していた。その

参道

好人庵庭

後、現在の場所に土地を購入し、15年前、智堂省一大和尚を開創開山、秋葉玄吾師が堂頭として好人庵が建立された。カリフォルニア大学バークレー校を控える閑静な高級住宅地に敷地600坪の中にある禅堂である。美しい自然環境の中に古風を慕う弁道にふさわしい僧堂はまさに癒しの空間である。

慶讃法要には永平寺副貫首・南澤道人老師、開山歴住忌には兵庫県海久寺住職・中村典篤老師を導師に迎え、厳粛に執り行われた。祝賀パーティーは、サンフランシスコにオープンした地元で大変有名な「Yoshi's」レストラン第２号店（秋葉総監の奥様よし令夫人がオーナー）で関係者のみで行われ、日本食を堪能した。

４）桑港寺開創75周年慶讃法要＆法戦式

桑港寺は昭和９年（1934）、12月８日の成道会に初代・磯部峰仙老師により法幡を掲げて以来、今年が創立75周年を迎えた。1984年には、第９世・細川正善師（現ＳＺＩ会長）並びに第８世・藤川享胤師の法灯護持の道念により、新本堂が創建され、現在に至り、このたび創立75周年慶讃法要が厳修された。

慶讃法要に先立ち、首座法戦式が執り行われた。西堂には中村典篤老師を迎え、首座は、秋葉総監のお弟子・マッコイ純徳兄、弁事にモリス靖悟兄が任に当たり、アメリカならではの問答で大変感銘を受けた。両班配役を戴いた私も英語で祝語を述べさせていただいた。檀信徒総回向は桑港寺国際布教主任・舘寺規弘師が導師で厳修され、その後、記念法話が特派布教師・中野天心老師により日本語で行われ、英語通訳に国際センター書記・ルメー大岳師があたり通訳された。その後、開創75周年慶讃法要が中村典篤老師を導師に執り行われた。その後、記念写真を本堂正面で撮り、昼餐会場をカブキホテルに移し、記念祝賀会を盛大裡に終えることができた。

ポットラック・持ちより夕食

法戦式英語の本則頌牌

５）おわりに

このたび、息子（８才）も随喜させていただいた。弁事をした経験もあったので、桑港寺での英語での問答にとても興味を持ったようだ。日本からも若い僧侶の方々が随喜され、裏方で法要を支えて下さったが、異文化の地で着実に曹洞禅が定着している様子を肌で感じていただき、とても良い経験をされたと思う。若い僧侶の皆さんには是非海外に出て、真摯に弁道に励んでいる人たちと交流を持って何かを感じていただきたい。おわりに、お世話いただいた皆様に感謝申し上げます。

… 海外レポート① …

サンフランシスコ禅センターでシンポジウム

ＳＺＩ監事　黒柳博仁（長野県本地院住職）

南米別院で創立50周年を祝った今年、北米で最も歴史の古い禅センターの一つ、サンフランシスコ禅センターでもその創立者・鈴木俊隆老師の渡米50周年を祝った。俊隆老師の法嗣で大本山永平寺後堂の鈴木包一老師（静岡県焼津市、林叟院住職）が日本から招かれ「50年目の禅修行」と題するシンポジウムと祝賀パーティーが８月28日と29日の日程で行われた。

シンポジウム第1日目

第１日目のシンポジウムは、鈴木俊隆老師がアメリカにもたらした坐禅と叢林の修行形態の意義を歴史的、文化的側面から検証し、これまでの50年を振り返った。

老師の弟子で現在ヴィマーラサンガを主宰するルー・リッチモンド氏が司会を勤め、午前の部では、デューク大学宗教学部長のリチャード・ジェフ博士、カリフォルニア大学バークレー校の日本研究所ダンカン・隆賢・ウイリアムス准教授が明治後、大戦後の日本曹洞宗の状況、特に宗門の海外布教の実態を紐解き、鈴木老師個人のおかれた歴史的環境と渡航を決めた思想的背景を鈴木包一老師が語った。また禅センター創立以来の弟子で、後の指導者となる宗純・ワイツマン老師は、俊隆老師が日本の伝統をどのように取捨選択してアメリカ人に禅修行をもたらそうとしたのかを具体的な事例を挙げて顕彰した。

シンポジウムでの包一老師

午後の部では1960年代のサンフランシスコの文化的状況、その中で俊隆老師の教えを人々がどのように認識し、何を受け取ったのかを考察した。コロンビア大学助教授のウェンディ・アダメク女史、草創期の秘書を勤めたイヴォンヌ・ランド女史、そしてサンフランシスコ禅センターを一躍高名にした精進料理レストラン「グリーンズ」の先駆的シェフ、エドワード・ブラウン師がパネリストとなった。日本からアメリカに禅の実践修行や知的理解が伝わる過程で何が得られ何が失われたのかを、ビート禅とスクエアー禅の影響と衰退の経緯や女性参入の意義を踏まえて語り合った。

シンポジウム第2日目

第2日目は会場を１日目の禅センター・シティーセンターからUCバークレー校に移し、スタンフォード大学宗教学教授で道元禅師御著書の数々の翻訳を手がけるカール・ビュルフェルト教授が司会をした。50年の歩みを振り返った１日目の成果に立ち、この日は現在と今後のアメリカの禅が主題であった。

ＵＣバークレー校の禅学教授ロバート・シャーフ博士、レニソン大学、ワーテルロー大学で東洋思想・宗教学の教鞭をとるジェフ・ウィルソン准教授、マクギル大学の日本宗教学者ビクター・ホリ准教授、サンフランシスコ禅センターの前住職ノーマン・フィッシャー師、それに空巣山禅堂を興したグレース・シレソン女史とインサイト・メディテーションセンターを主宰するジル・フロンスダルア師という２人の宗純・ワイツマン老師の法嗣、いずれも次代のアメリカ仏教を担う世代の研究者、実践者が発言者となり、アメリカ禅の最新状況について知識を集積し、まずアメリカの禅の意義ある特徴とは何かを探った。そして、禅がアメリカの中でサブカルチャーとして一般化された中で直面する禅指導者や修行者の苦悩、希望、落とし穴、将来の予測を、一方で未だに残る禅に対する筋違いな誤解との対比の中から考察した。更に禅修行が今後も社会的な運動として十分なインパクトを持ちながら継続される可能性、そのために仏法を最も効果的かつ有意義に伝えていく方法を様々な角度から掘り下げていた。

シンポジウム第2日目聴衆

ただ筆者がもっとも印象深く聞いたのは「アメリカ禅の組織は持続可能なものに確立されたか」、「法系の相伝はアメリカ人にとって意味があるか」という問いと討論であった。欧米人が仏教に親近感を持つのは仏教をユダヤ・キリスト教と同じ意味の宗教ととらえていないからだと思う。幾世紀に渡る科学的知見の獲得によって一神教的世界観が揺らぐ中、仏教はそれと矛盾しない一大実践哲学体系であるからであろう。したがって彼らは科学の功績がもたらす多く利益があらゆる人に平等に享受できるのと同じように、仏教にもそれを期待しているのだ。その中、アメリカでは韓国やベトナムなど日本以外からもたらされた禅もあったものの、この50年の間にチベット仏教、テーラヴァーダのヴィパサナメディテーション、日本の浄土真宗などもっと広汎な形態の仏教とその組織にアクセスできるようになった。曹洞禅によって仏教を知った新旧の修行者、指導者たちの中にも他の仏教集団の修行方法を取り入れ、多様な修行方法を創造しているのは、先述のような期待にこたえようとする意思の表れであり、その時、法系を重んじる禅と、それを明確にしない他の仏教宗団とが特に布教現場で大きな差を生んでいるからではないか。この日のシンポジウムで教団のあり方にまで問いが至るのはこうした背景があるように思った。

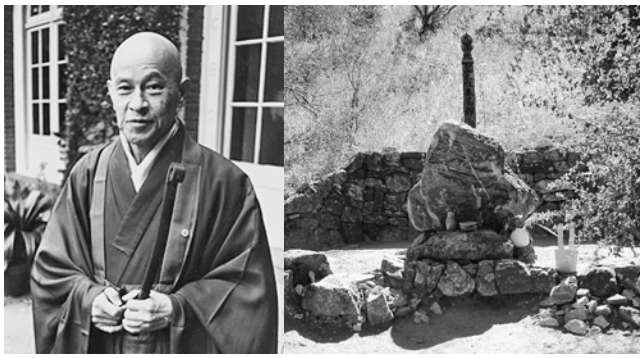
紙幅の都合でパネリストの各発言内容までは紹介できないが、このシンポジウムを録音したＣＤが頒布されるとのことである。関心のある方々はサンフランシスコ禅センターまでお問い合わせの上、ご入手いただきたい。

また、サンフランシスコ禅センターの修行の根幹を担うタサハラ禅センターを囲む山で昨年大規模な山火事が起こり、禅センターは甚大な物理的被害と経済的損害を蒙った。

タサハラにて

山火事の跡

多くの爪痕を残した山火事であったが、幸運にも、俊隆老師の塔はその被災を免れた。



鈴木俊隆老師とその塔

今回、日本から参加した鈴木包一老師はシンポジウムに先立って現地を視察され、幸い施設が復旧可能であることを直接に確認された。

鈴木包一老師とご家族

今まで雨季の洪水を防いできた山の樹木を失った今、砂防対策にはまだまだ多大なる経済的支援を必要としている。50年を迎えたサンフランシスコ禅センター、特にそのタサハラ禅センターは今回のシンポジウムにパネリストとして参加したような現在のアメリカにおける仏教学の権威者、多くの修行者を輩出した歴史ある道場である。是非ともその歴史と、実績とは我々も刮目して見たいところである。機会があれば訪れていただきたい。

【タサハラは『曹洞宗海外寺院ガイド』P18参照】

… 海外レポート② …

モンゴル仏教について（モンゴル植林事業支援ツアー報告）

ＳＺＩ事務局員　菅原研洲（すがわらけんしゅう）（宮城県城国寺副住職）

● モンゴル仏教概観

モンゴルという国を考えてみますと、チンギス＝ハーンを始めとして、後に元帝国となる巨大な騎馬集団国家というイメージもあり、果たして宗教は何を信じているのか？とも思うわけですが、この国はチベット仏教と長らく密接な関係を持っています。そもそも、現在のチベット仏教の指導者であるダライ＝ラマというのは、1578年にアフタイ＝ハーンというモンゴルの王によってチベット仏教ゲルク派の高僧ソナム・ギャッツオに授けられた称号（意味は、大海の如き指導者）なのです。

さて、モンゴル人と仏教という関わりですと、歴史的には相当遡れるようですが、現状につながる形で仏教が受容されたのは、チンギス＝ハーンによってモンゴル帝国が築かれた後のようで、チンギスの孫がチベット仏教サキャ派の高僧と出会ってからのようです（1247年とされます）。

それまで、精神文化は決して盛んではなかったモンゴル人ですが、サキャ派高僧の親族が文字（パスパ文字）を作り、更に世界観やモンゴル帝族の王統譜（釈尊に連なるとされた）が作られて、14世紀にはモンゴル語の翻訳仏典が成立したとされています。元朝時代はサキャ派と密接な関係でした。そして、元が明に滅ぼされてからは、先に紹介したように、改めてゲルク派と密接になり、清王朝の成立後は、その皇帝の絶大なる権力の下でモンゴル語訳一切経が木版刊行されるなど、モンゴル仏教文化が華開きました。

● ガンダン寺

我々の旅程は、初日・２日目と首都ウランバートル周辺に滞在していますが、そもそもこの首都ウランバートル自体が、チベット仏教の活仏ジェブツンダンパ・ホトクト（1999年に同９世が即位）の支配地として栄え、そしてこの活仏がゲル生活を止め定住するようになってから都市化（一種の門前町だったようです）が進みました。そして定住するための寺院として同５世の時代に建立されたのが、モンゴル随一の大寺院であるガンダン寺です。

このガンダン寺は、人民革命時代にも唯一国内で保存され、布教が許された仏教寺院だそうですが、1970年に境内地内に5年制の宗教大学が設立され、今では５～７歳の子どもも入れる小学校も付設されるなど、僧侶養成には力が入っているようです。なお、モンゴル仏教の特徴の１つに、僧侶（ラマ）が学問研究に熱心であることが挙げられます。これは、厳しい試験を経てゲブシという博士の学位を獲得するチベット仏教の伝統に倣っています。履修範囲はインド仏教以来の中観派や唯識、あるいは密教に至るまで広く学びます。我々が訪れた際にも、指導する年配の僧の下に学生とおぼしき若い僧侶が数人、熱心に話を聞く様子を見ることが出来ました。

また、敬虔な仏教徒は五体投地の礼拝を繰り返して信仰を形に表しており、マニ車を回したり、柱の周囲を右遶三匝していました。この辺の礼拝行は、日本の仏教徒には余り見ることが出来ないものです。

我々日本も、ソ連による北方領土占領以来、その返還を訴えていますが、ガンダン寺の中心伽藍である「観音堂」も、ソ連によって大事な物を奪われています。ジェブツンダンパ・ホトクト８世は盲目となってしまったそうなのですが、その治癒を祈り高さ25メートルもの大観音を安置し祀っていました。ところが1938年にソ連はそれを持ち去ってしまいました。今でもモンゴル人は返還を悲願としているようです。

ガンダン寺観音堂

ガンダン寺を訪れた時間はまだ早朝といって良い時間帯でしたので、寺も完全に機能しているわけではなかったようですが、しばらく待つと、多くの僧侶が本堂とおぼしき場所に集まり、賑やかに読経（といってもほとんど何を唱えているのか分かりませんでした）しているのが分かりました。在家信者の方が多く出入りするのを不思議に思い、現地のガイドの方にお聞きすると、次のような仕組みになっているということです。

この供養は、まず寺院に入り、食券ならぬ、「供養券」を購入する場所があり、供養券には値段に応じたいくつかの種類があって、唱えられる経文が変わるとのことです。確かに、供養の様子を見ていた時には、紙を持って来た信者に対し、読経をリードする僧侶（法要維那に相当か？）が内容を確認して、次々と経文（或いは陀羅尼）を挙経していました。この辺は、我々が行う施食会に近い様子かとも思いました。後述しますが、別の寺院では本当に施食会らしき法要も見ることが出来ました。

また、付言しておきますと亀野事務局長は、供養をし読経していただいておりました。

● ダンバダルジャー寺院

施食会といえば、ウランバートル郊外にある日本人墓地を訪

ダンバダルジャー寺院

火葬場

れた際に、近所にあったダンバダルジャー寺院に寄りました。

本堂が木造２階建てという興味深い建築様式でしたが、僧侶達が集まっている場所に行くと、別の伽藍から僧侶達用と思われる食事や飲み物が運ばれ、そして飲み物を飲みながら妊婦に依頼された法要を行っていました。安産祈願と思われる法要です。食事時に合わせ、僧侶への供養も合わせて行われたものかと思われますので、まさに施食会でしょう。法要の途中で、鼓鈸が鳴らされるなど、中国や日本の法要との共通点などを見い出せます。

また、この法要には、少年僧が多数参加していたのですが、何とか椅子には坐っているものの、集中している様子もなく、半ば遊んでいる風な少年もいます。しかし、施主は決してそれを嫌がることなく、自らが求める供養を受けて帰っていきました。本来、布施の功徳というのは僧侶の素質には左右されないものですが、その様子を垣間見た気がいたします。

● モンゴル人と仏教

人民革命中のモンゴルは、チベット仏教以来の活仏の信仰なども停止されていたようですが、革命が終焉すると活仏も多くが復活したようで、ダライ＝ラマ14世がモンゴル巡錫を行うと余りに激しい熱狂をもって迎えたらしく、隣国中国がそれを嫌がり、一時は貿易にも悪影響が出たということです。それほどに人々は、活仏を自らの心の拠り所としているのです。

また、いくつかのゲルにも寄りましたが、家長が坐る一番奥には、ダライ＝ラマの写真が飾られ、経本などを置いている場合もありました。特に、革命終焉後にこれらのことが復活しつつあるようですが、経典は『金光明経』などが多いようです。同経は、「四天王」や仏教の守護神について詳しく論じる内容であり、護国経典として珍重されてきました。

さらに、ウランバートル近郊にある火葬場に寄っています。モンゴルは基本的に土葬が行われてきました。その理由としては、モンゴル民族の英雄、チンギス＝ハーンが土葬で埋葬されたという伝説があるからだそうで（なお、埋葬地は不明）、今でも９割以上は土葬だそうですが、しかし、土地の不足や、衛生面の問題などから、徐々に火葬が増えているそうです。また、南に行くと、風葬や鳥葬も行われているようですが、それは本当にごくごく稀とのことです。

現地のガイドの方によれば、葬儀をしてはならない日が多く、月・水・金にしか葬儀はしないとも聞きました。我々が訪れた日は金曜日でしたので、火葬場も大勢の参列者を見ることが出来ました。日本にも火葬場の職員の人がいますけれども、その感じの職員が交通整理を行い、火葬に来た人を出迎えています。

我々は許可を貰って火葬場の中に入ってみたのですが、建物としては、本堂・火葬場・お別れの席・食事の席があり、遺骨を納めておく納骨塔は複数あるようです。本堂に足を踏み入れると、若い僧侶たちが、８人ばかり、まるで両班とばかりに葬列を待っています。遺骨になったらここでお経を唱え、お迎えするようです。また、本堂の中には、電光掲示板によって唱えているお経が示され、参列者にもともに供養するよう求めています。中央には盧舎那仏とおぼしき本尊が置かれ、周囲には遺骨を入れておく納骨棚がビッシリと立てられています。そして、あちこちに10,000トゥグリク札（日本円で約800円。しかしモンゴルの平均月収17万トゥグリクから換算すれば、約20,000円程度の感じか）が置かれています。この辺は、ややもすると雑然とした印象も受けましたが、布施をする方の思いが込められた情景です。

興味津々で見学する我々を意に介さず、１人の僧侶がそそくさと外に出て行きました。様子を見ていると、外に来た葬列を迎えに行ったようです。また、途中には、妻とおぼしき若い女性が写った遺影を持った男性が、意気消沈して別れの席に向かっていきます。親戚の方に慰められて、ようやく歩いている感じで、供養の場というのは国や風土を変えても同じなのだと実感した次第です。

モンゴル仏教は、熱心な僧侶教育と、それを支える多くの民衆の信仰とがあり、極めて健全な印象を受けました。なお、ウランバートル市内には、新宗教の扱いを受ける宗教がいくつか、諸外国から進出しているようで（直接見たのは、モルモン教です。あるいはチベット仏教も改めて瞑想センターを作るなど、進出を図っています）、徐々にそういう信仰に流れる場合もあるようです。また、女性と交際する僧侶や結婚する僧侶などもいるというお話しでしたが、そういう大らかな雰囲気もまた、モンゴル仏教なのでしょう。

… 海外レポート③ …

【帰国報告】ハワイの布教に携わって（3）

元ハワイ国際布教総監部賛事　吉田宏得（よしだ こうとく）（静岡県萬松院住職）

前号までは、日本から継承された仏教行事が、ハワイの色に染まり変化した一面を紹介してきました。今回は、独自の習慣や伝統的一面を紹介します。

日本での寺院運営は、主な収入としてお布施（葬儀・年回法要・護持会費・付届け等）と建物や借地（駐車場）等の不動産収入または稽古事の謝礼等に依って成り立っています。ハワイでも日本同様の寺院収入はもちろんですが、メンバーデュース（護持会費に相当するが、一家庭を一つの単位で数えず個人の宗教という立場で、自覚をもって個人としてお寺の檀信徒会費とする場合が多い。）の他に年忌等に関わらず冥福を祈願しての寄付等があります。この他に後述する行事による収入があります。特記すべき点として、葬儀や年回法要の布施は地域（国）柄、大変低く日本の10分の１程度の金額です。よって、寺院運営はそれほど裕福ではありません。また僧侶（国際布教師＝曹洞宗の呼称）は檀務の数に関係なく、信徒団体からの給与制の契約と成っているため一定です。ですからお寺を保持する為に、檀信徒が工夫して収入を得る道を努力しています。

大変重要で日本では極めて珍しい年間行事、B.B.Q. Chicken Sale（フリフリチキン）を紹介します。この行事の大きな特徴としては、お寺が主催して全檀信徒の協力と理解は基より、その地域にまで浸透して多くの方々の参加を得て寺院の運営基金が集められています。この収入が年間運営費の半分近くを示す寺院も有ります。

さて私がハワイに赴任した当初、お寺での行事を通して文化的また習慣的な差異に大変驚いた事は数知れませんが、特にこのバーベキューチキンセールという言葉には、大きな違和感を覚えた事を思い出します。それは、日本語で示せば〇〇寺主催『焼き鳥セール』ということになります。私の知る限り日本のお寺では、放生会や△△動物供養などを行い万物の命に感謝する供養はしますが、お寺の境内で堂々と寺が主催してその反対となる殺生の肉を販売する行事はないと思います。私は「なぜハワイのお寺では…？」と疑問を抱きました。前述した理由と文化性を知るまでこの疑問は続きました。毎年、この行事を行うには寺の役員や婦人会を中心に、数ヵ月も前から綿密なる計画と準備を通して成功させているのです。この背景には、「お寺のために…」と努力する篤い信仰心が彼らを支えているのです。

ＢＢＱチキンを一羽８ドル程で販売し、その内の２ドル程がお寺へ入る寄付金となります。まずは、この行事への理解と協力と依頼、期日や受取時間を記入した案内とチケットを作成し、全檀信徒へ郵送します。その数日後より、心得た檀信徒達から協力する金額が返送されてきます。それらの好意を帳簿に整理し当日に備えます。

当日は、早朝５時頃より炭火を起こし準備が始まります。チキンを串に刺して焼き、特製のタレを付けて準備を進めます。焼き手・袋詰め・運搬・車整理・販売・会計と、それぞれ何年も自分の持ち場に責任を持って奉仕するお寺役員や婦人会により、手際よく進められていきます。販売時間になると大勢の人が車の列をなして、注文のＢＢＱを受け取ります。午後３時頃まで延々とこの作業が続けられ、芳ばしい香りに誘われる飛び入り等も受けながら、毎年ここがお寺の結束の見せ所とばかりに、炭火の熱気に負けない全員の気合と心が揃います。夕刻の片付けが終わるまで、この意気込みが続きます。この行事を疑問視していた私の目は、反対に日本では薄くなってきた信仰心や利他の心の強さを発見しました。

※フリフリとは、ハワイ語で回転するとか回すという意味で、チキンを棒に刺してグルグル回しながら焼く様子を示している。Chicken BBQ Sale と呼称する所もある。

特製のタレで味を付ける係

お寺の境内に列を作る車と調理の煙

…　国内レポート　…

第11回　ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船

～　つながる　ひろがる　アジアの　ねがい　～

様々な宗教･民族･文化を持つ人々が一つの場を共有する「ゆめ観音アジアフェスティバル in 大船」が、9月5日、大船観音寺で開催されました。

開催日　平成21年9月5日
会　場　大船観音寺（鎌倉市）
主　催　ゆめ観音実行委員会（大船観音寺・ＳＺＩ）
後　援　鎌倉市・神奈川国際交流財団・㈳神奈川県青少年協会
協　力　神奈川県第二宗務所第五教区・即心会
ＵＲＬ　http://soto-zen.net/yume

来場者は約1500人を数えました。お寄せいただいた入場料の一部は義捐金として寄託いたします。
また、万灯供養法要で供養された経木塔婆と同じ約50本の苗が、「塔婆供養で植林支援事業」を通してモンゴルに植樹されます。
ゆめ観音は、鎌倉市やかながわ国際交流財団、インド政府観光局など公的機関や地元のご理解ご協力をはじめ、運営に携わった僧侶、スタッフ、鶴見大学学生、大本山總持寺、大船観音寺、地元の皆さまなど多くの力により開催されています。
観音様のご縁により結ばれた宗教者、多種多様な民族による出演者が来場者とともに同じ場を共有し、祈りをささげる姿は、平和の実践として尊い意味をもつものと感じます。
今年５月には、第33回正力松太郎賞本賞を戴きました。全ての方々に感謝申し上げ、ゆめ観音がこれからも継続して開催できますよう願います。
（文責・ゆめ観音実行委員会）

※石川県の子どもたちからの平和の願いが込められた千羽鶴を届けてくださった三香美様より寄稿いただきました。

ゆめ観音アジアフェスティバルに参加して

昨年のゆめ観音アジアフェスティバルに初めて参加させていただき、そのご縁で今年も行かせていただきました。
一度は訪ねてみたいと思っていた大船観音でしたが、その時の印象は、大きな白衣観音様が訪れたすべての人々の願いを黙って温かく包みこんでくださるような、そんな気がいたしました。
そして今年のゆめ観音。初秋とはいえ残暑厳しい日中、白衣観音様の御前でアジア各国地域からの民俗芸能、舞踊がそれぞれの思いで奉納されています。
どの団体も、とても表情が明るく楽しそうです。まさにフェスティバルです。地方では味わうことのできないステージです。とても一寺院の大祭とは思えません。
夕方に近づき大詰めのファイヤーダンスには目を見張るものがありました。終了するといよいよステージを囲む沢山の蝋燭に火が灯ります。その火は、今もなお燃え続けている広島原爆の火であること。その灯がこの大船観音で燃え続けていることをこのフェスティバルに来て初めて知りました。
平和を願う灯明が観音様を照らし出し幻想的な世界を創ります。
当方石川県輪島市の千枚田でも飛躍のキャンドルが灯されたそうです。蝋燭の灯火は私たちの心を和ませ、願いが叶うように見守ってくれているのでしょう。
灯明の中、読経が流れ、供養塔に火が点火され塔婆焼却がなされる時はおもわず合掌しすべてのものが観音力によって清められていくような、そんな思いがいたしました。
みんなの願いが叶うように、また広くアジア各国、世界の平和への祈りが供養されるのです。

日々の生活に欠かすことのできない祈り。自分だけの願いで止まることなく、他人のために祈ることができるように私たちを観音様が導いて下さっているように思えます。
毎年９月初旬の土曜日に開かれるこのフェスティバル。そのご縁を一人でも多くの方に生かしていただきたい気持ちでいっぱいです。
今年、当地の小学校500人のこどもたちの平和への願いから折られた千羽鶴を大船観音に届けることができました。これは、昨年このゆめ観音で出会った僧侶たちの平和の行脚を綴った『ランタンとつる』の絵本をこどもたちに伝えたいという気持ちから始まったものです。
今年は折鶴に関った友人が一緒に来てくれました。ゆめ観音の最後に万灯供養法要大導師様より「平和の心を一人一人が抱いて活動してくだされば、きっと平和はやってくると信じています」との法話がありました。友人は、来年もまたゆめ観音に誘って欲しいと言っています。
大船観音アジアフェスティバルには、誰もが気軽に参加でき、楽しみながら、アジア各国地域の「食」ありかつ「本物の祈り」がそこにある。そんな魅力があるような気がするのです。
（石川県寺族　三香美成子）

『曹洞宗海外伝道史（仮）』編纂について

ＳＺＩ海外伝道史編纂プロジェクト委員長　福島伸悦（ふくしましんえつ）（埼玉県長光寺住職）

1980年（昭和55年）11月10日に発行された『曹洞宗海外開教伝道史』は、1992年11月20日付けで故大竹明彦・宗務総長の名で曹洞宗の海外伝道の過ちを謝罪し、誤った歴史認識と差別表現により差別図書として回収されました。以来、宗門の海外伝道に関しての資料がないに等しい状況にあり、現在に至っています。

2008年、ＳＯＴＯ禅インターナショナル創立15周年を記念して、曹洞宗海外寺院ガイドブックが発刊され、現在寺院名鑑に掲載されている寺院、また、宗門に登録されている国際布教師人名一覧を掲載しました。（現在はアップデートされたものがホームページに掲載されていますのでご覧下さい。）

これまで、国際布教師各位の口では言い表せないほどのご苦労と布教教化のおかげで、一佛両祖の教えが海外の地で着実に定着していることを私たちは忘れてはなりません。今後、曹洞宗の国際布教の方向性を考える上で、曹洞宗国際伝道史の再構築は不可欠であります。過去の歴史に学び、環境・人権・平和をスローガンに掲げる曹洞禅が世界中の人たちに理解され、益々その教えが敷衍されることを切に望むものであります。

さて、ＳＯＴＯ禅インターナショナルでは、今年度の事業として海外伝道史編纂プロジェクトを立ち上げました。戦後の海外伝道史編纂を進めるとともに、過去に犯した誤った歴史認識や人権を侵害するような差別などを反省し、歴史に学ぶためにも『曹洞宗海外開教伝道史』を史料として復刻していただくよう運動を展開していきたいと思っております。

これまで第１回7月28日（火）、第２回8月26日（水）、第３回9月25日（金）、第４回11月4日（水）と会議を開催し、編纂方針等を検討し、史料集めと情報収集に取り掛かりました。細川会長の任期の間に、とりあえず日系寺院をまとめることにし、内容は各寺院の年表作成、国際布教師の動向（略歴　僧籍地等）、行事、記念法要、現地の活動、寺院組織などに限り編集することにしました。12月3日（木）には、細川会長、亀野事務局長、私の３人で松本市・廣澤寺住職・小笠原隆元先生を訪ね、ご意見を拝聴し、先生がこれまで収集整理された資料（各寺院で発行された会報等）をお借りすることにしました。全てＰＤＦ化してＣＤにまとめる作業に取り掛かるつもりです。

なお、国際布教関係各位の皆様にお願いしたいのですが、どのような資料でも結構ですのでご提供していただけるようお願い申し上げます。今後とも何卒、私共の活動にご理解とご支援ご助力をお願い申し上げる次第です。

塔婆供養で植林支援寄託報告

SOTO禅インターナショナル（ＳＺＩ）創立15周年記念事業としてスタートした「塔婆供養で植林支援」事業は本年２年目となりました。

この事業はNPO法人GNCとともに進めているものです。

お陰様で、皆様のご理解ご協力をいただき、本年（2009）年度も昨年と同本数、25,000本分の苗木支援が集まりましたので、GNC事務所に寄託させていただきました。

寄託後、GNC代表宮木氏を囲んで卒塔婆を中心とした資源の循環システムの具体的方策について話し合いをいたしました。また、今年6月に植林した苗木の活着状況や、活着しなかった苗木の植替えを行なったことなどの報告をいただきました。

「塔婆供養で植林支援」にお寄せいただいた苗木支援は共存の森づくりプロジェクトとして、85年、89年、92年、96年の大火災で約70%（32000ha）が被害にあったモンゴルの永久凍土地帯に、森林再生のため植樹されています。今回の支援で集まった分は来春（2009年4月下旬～５月初旬）の植林を予定しています。

なお、昨年分は今年5月～６月にかけて植林されています。その報告は会報41号も併せてご参照ください。

塔婆供養で植林支援事業は引続き継続して行なわれます。

皆様のご協力をお願いいたします。

塔婆供養で植林支援プロジェクト参加ご案内

郵便局より振込用紙にて　『塔婆供養で植林支援』・ご住所・ご寺院名を明記の上、30円×本数分の金額をお振込下さい。

郵便振替口座　00100-6-611195
口 座 名 義　SOTO禅インターナショナル

SZI express

会費納入者・賛助金納入者名簿　2009年8月1日～2009年12月10日まで

ありがとうございました。
大切に使わせていただきます。

■ 会費納入者ご芳名

2009/8/1 ～ 2009/12/10
（順不同・敬称略）

北海道	定光寺	
岩手県	宝積寺	田村優子
秋田県	東泉寺	佐藤一應
秋田県	円通寺	近藤俊貞
福島県	医王寺	村上徳栄
埼玉県	興徳寺	福島伸悦
埼玉県	嶺雲寺	廣田俊和
東京都		菅原研洲
東京都	東禅寺	福田恵文
東京都	真正寺	木谷雅樹
東京都	豪徳寺	粕川鐵禅
東京都		相馬正之
東京都	長泰寺	大谷哲夫
東京都	寶昌寺	秦慧孝
東京都	長泉寺	福嶋幸隆
東京都	宗保院内	鬼頭広安
神奈川県	全竜寺	柳周峯
神奈川県	貞昌院	亀野哲也
神奈川県	天徳院	
神奈川県	東光寺	
神奈川県	随流院	
神奈川県	倫勝寺	馬場義実
神奈川県	徳善寺	尾崎正善
静岡県	慶昌院	磯田浩一
静岡県	延命寺	
静岡県	洞雲寺	糸柳格順
愛知県	慈光院内	戸田規子
愛知県	地蔵寺	浅井宣亮
長野県	興龍寺	洞派信隆
石川県	大乗寺	
山口県	興元寺	金子清学
山形県	般若寺	藤川享胤
宮城県	洞昌寺内	奥野秀典

■ 賛助金納入者ご芳名

2009/8/1 ～ 2009/12/10
（順不同・敬称略）

東京都	長泉寺	福嶋幸隆
愛知県	地蔵寺	浅井宣亮
埼玉県	興徳寺	福島伸悦
東京都	龍昌寺	岡本荘一
東京都	寶昌寺	秦慧孝
静岡県	延命寺	
愛知県	慈光院内	戸田規子
山形県	般若寺	藤川享胤

■ 塔婆供養で植林支援協賛者ご芳名

2009/8/1 ～ 2009/12/10
（順不同・敬称略）

神奈川県	全竜寺	柳周峯
東京都	豪徳寺	粕川鐵禅
神奈川県	貞昌院	亀野哲也
埼玉県	興徳寺	福島伸悦
東京都	宗保院内	鬼頭広安
岩手県	宝積寺	田村優子
埼玉県		齋藤浩三
東京都	東禅寺	福田恵文
東京都	寶昌寺	秦慧孝
愛知県	慈光院内	戸田規子
神奈川県	ゆめ観音実行委員会	

累計 178件　苗木 52,036本分

■ 助成金

大本山總持寺
大本山永平寺

■ 賛助金

曹洞宗宗務庁

動　静　報　告

2009/8/20 ～ 2009/12/25まで

８月26日	役員会・編纂委員会	檀信徒会館
８月26日	教化部国際課連絡会議	檀信徒会館
８月27日	会報41号発送作業	ＳＺＩ事務局
９月５日	ゆめ観音アジアフェスティバル	大船観音寺
９月25日	役員会・編纂委員会	檀信徒会館
10月23～25日	北米好人庵・桑港寺記念行事随喜	北米好人庵・桑港寺
10月30日	塔婆供養で植林支援寄託	GNC事務局
11月４日	海外伝道史編纂委員会	檀信徒会館
11月10～16日	南米別院佛心寺記念行事協力	ブラジル・佛心寺
12月３日	海外伝道史資料調査	廣澤寺
12月15日	国際布教師OB会・ＳＺＩ役員会	宗仙寺
12月18日	キャンドルナイトin大船	大船観音寺
12月27日	会報42号発送作業	ＳＺＩ事務局

随時インターネットにて役員会を開催しております。

PHOTO BOOK　『100万人のキャンドルナイト』

日本中で行われているキャンドルのイベントの一つとして、大船観音寺でのキャンドルナイトが紹介されました。
街を挙げてお祭りとして行われているもの、カフェなどのお店で気心しれた人たちと楽しむもの、お家で家族としっとりと過ごすもの、また、廃油やミツロウを使ったエコキャンドルの作り方、ネットで気軽に買えるキャンドルショップの紹介、一般公募から集められた写真も多数掲載されています。

編著 雷鳥社キャンドルナイト編集部
価格 ￥1,575（本体￥1,500 ＋税）
ISBN 978-4-8441-3536-4

編集後記

皆様、１年間お疲れ様でした。
2009年度最後の会報42号をお送りします。今号から誌面上で、ある試みがなされています。見難かった表紙の「コンテンツ」を16頁に移動し、字を大きくしました。代わりに表紙には「●●特集号」と、特集名のみを挙げるようにしています。
読者の方からの要望に応えた変更ですが、情報が増えたものの字が小さくなり、講読する際に困難を生じては本末転倒です。今後も、情報の提供と読者の利便性とは、両立を目指して模索されていくことでしょう。次号からの会報もご期待下さい。
2010年もＳＺＩの事業は目白押しです。会報などを通してご報告させていただきますが、ご支援のほどよろしくお願いいたします。
（編集菅原）

SZIホームページ運営中

SZI　検索　SZIで検索！

会報バックナンバー、過去の総会・講演会、スタッフページなどもご覧いただけます。

URL http://soto-zen.net

2010年 SOTO禅インターナショナル 総会・講演会のおしらせ

日　程／2010年2月15日（月）
会　場／東京グランドホテル

13：00　総　会（3F 桜の間・会員のみ）

14：30　講演会（3F 桜の間・どなたでも参加できます）

「法網今や西ひがし」

講師／ニューヨーク大菩薩禅堂師家　嶋野栄道老師

16：30～懇親会（3F 蘭の間）

▶ 総会はＳＺＩ会員のみですが、講演会はどなたでも参加歓迎いたします。

定　員／ 200名
会　費／ 無 料 （懇親会参加者のみ 実費￥5,000－）
締　切／ 2010年1月末日

お申し込み方法

一般参加希望は
ご住所、氏名（参加者のお名前）、連絡先電話番号と「ＳＺＩ講演会希望」と明記の上、
○ FAXの場合は　045－843－8864 まで
○ 葉書の場合は　〒233-0012　横浜市港南区上永谷5－1－3
SOTO禅インターナショナル事務局 宛　にお送りください。

ＳＺＩ会員のみなさまは会報に同封されている葉書にご記入の上、事務局まで御返信ください。

CONTENTS

▶巻　頭　“偏界不曾蔵”の禅を ……永平寺副貫首　南澤　道人　1
▶特集１　南アメリカ記念事業報告
「佛心耀を増して　正伝新たなり」……ＳＺＩ事務局員　佐藤　慧真　2
▶特集２　サンフランシスコ75周年／好人庵15周年
サンフランシスコ桑港寺開創75周年慶讃法要に随喜して ……ＳＺＩ相談役　福島　伸悦　6
▶海外レポート
①サンフランシスコ禅センターでシンポジウム……ＳＺＩ監事　黒柳　博仁　8
②モンゴル仏教について（モンゴル植林事業支援ツアー報告）……ＳＺＩ事務局員　菅原　研洲　10
③【帰国報告】ハワイの布教に携わって（3）……元ハワイ国際布教総監部賛事　吉田　宏得　12
▶国内レポート
第11回 ゆめ観音アジアフェスティバス in 大船 …… 13
▶『曹洞宗海外伝道史（仮）』編纂について ……ＳＺＩ相談役　福島　伸悦　14
▶塔婆供養で植林支援寄託報告…… 14
▶SZI express　会費納入者・賛助金納入者名簿・動静報告・編集後記 …… 15
▶2010年度　総会・講演会のご案内 …… 16